

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

JA、市、猟友会が連携・協力し、農業従事者を中心とした体制づくりを基本方針に、合意形成ワークショップによる地域住民との合意形成の下、集落ぐるみの被害防止活動を実施。また、隣接市と連携した捕獲活動等によりイノシシ定着の未然防止に成功。

とみさとしゆうがいちようじゆうひがいぼうしたいさいくきょうぎかい

富里市有害鳥獣被害防止対策協議会

（会長：高山 勇治郎）

とみさとし
千葉県富里市

主な取組

- 「農業従事者が地域の鳥獣対策のキーマン」と位置づけ、猟友会の協力を得つつ、農業従事者を中心とした「自分の圃場は自分で守る」体制づくりを基本方針として、JA富里市と市が連携しながら、合意形成ワークショップ（集落環境診断会）による集落ぐるみの被害防止活動を実施している。
また、隣接市である山武市でのイノシシの捕獲活動や情報共有等によりイノシシの市内への侵入を防止することで被害発生の未然防止に成功している。
- 実施隊は猟友会主体の第1捕獲部隊（銃）と農家主体の第2捕獲部隊（罾）の2部体制にするなど、捕獲従事者確保の工夫が成されている。また、捕獲従事者の育成・確保のため、捕獲の経験年数が長い隊員から若い隊員への捕獲技術の伝承や、農業者団体における啓発活動の中での狩猟免許取得希望者の募集及び独自の狩猟免許試験対策講習会の開催など、人材確保や育成の仕組みを構築している。
- JA生産部会への放任果樹・農作物や野菜残渣の処理等に関する普及啓発や、アライグマ・ハクビシン等の中型獣類の集中捕獲等により農作物被害が大幅に減少している。

【被害金額（富里市全体）：約460万円（平成29年度）→約250万円（令和2年度）】